



福島に行ってきた。

大阪で暮らしていると、見えないもの

地スタディ・ツアー」に行くそうだから、それに混ぜてもらおうのはどう？ という話が降ってわいてきました。多少の逡巡

「福島に行かなければならない」と漠然と思っ
ていました。そんな折り、
七月に高槻で保養キャン
プ（被災地で暮らすこと
は子どもの心身の健康や、
増え続ける被ばく積算量
を気にしながらの生活に
なる。そんなお母さんや
お父さんの気持ちに寄り
添い、子どもたちが放射
能を気にすることなく過
ごせるようにと全国各地
で行われている）を計画
している人たちが「被災

（急でもあり、今まで保
養キャンプのことを深く
考えてこんかったのに行っ
てもええんやろか。だが、
しかし…）の末、ツアー
のしっぽにつかまって行
くことにしました。

相馬市で

地域の子どもたちを保
養へ送り出す窓口になっ
ておられる方が話をして

四月に、今まで帰還困
難（警戒区域）とされて
いた20km圏内の一部で
避難指示が解除されてい
ます。避難者への補償金
は一人10万円/月です。
「補償金は暮らせるとな
る打ち切られる。だけど、
川内村（一部を除いて解
除された）はほとんど帰
る人はいない。何も無い
のだから。学校も病院も
店も何も無い」「色んな
境界がある。放射能の境
界、補償金の境界。かつ
ての地域のコミュニティ
はバラバラになった。残っ
た人たちは避難した人た
ちを非難する。そして、
だんだん心配する雰囲気
がなくなっている。『だ

止まり何を食べていいの
かわからなかった。行政
の測定は放射能が出たか、
出なかったかというだけ
だった。二〇一二年二月、
地域のみんなも困ってい
るだろうと個人で機械を
購入し、食品、水、土壌、
空間線量の測定所を立ち
上げた。子どもにとって
どれくらい線量が大き
夫なのか分からないな
かで保養キャンプは重要」

いじょうぶだ。何食つても』と年配者は言う。自分たちが暮らす場所はここであり、ここは安心・安全であってほしい。国や東電はそういう人々の気持ちにつけこみ、結局は踏みこじっているように思えてならない。甲狀腺の異常を訴える子どもたちの数が今年になって増えているという。帰りに際、一人のおかあさんが夏休みの保養キャンプの問い合わせに來られていました。

農家民宿 「森のSINOKUJI」

二泊三日の福島でした。

その二泊をここでお世話になりました。家は30kmの緊急時避難準備区域をギリギリ越えた所で、耕作地が広がる緑の里山のなかにありました。うっすらと草がひろがる田畑に作付けはされていません。原発事故前までは田や畑を耕し、無農薬で作物を育てる。そして、移住し、農業を志す人たちのために合宿を行っていたそうです。今はお米も野菜も買っているという。それでも野菜を中心にした料理に数種類の自家製のお漬物はどれもおいしく、その量は食べきれないほどでした。

もしも…なんて、せん

無いことを言うのを常日頃は自重しているのですが、原発も事故も無く、もう少し若かったら合宿に参加したかった。

南相馬市にある 「希望の牧場」 に立ち寄る

震災後、放置され殺処分を言われた牛が広大な土地で保護され、飼育されている。小雨降るなか、



たくさん牛たちが牧草をはむ。仔牛もいる。線量計は一・〇五μSv/hを示していた。

南相馬市博物館

美しい緑に囲まれた博物館でした。このモニタリングポストは〇・三五七。

ちょうど「被災地の原野に生きる―南相馬市の生き物と人・暮らし―」という特別展の最終日。案内してくれた学芸員さんは「絶滅危惧種のミズアオイ（水田や湖沼に広く生育していた。可憐な青い花が咲く）が津波被災地にできた水たまりの

そこここで新たに発見されています」と喜びを語ってくれる一方で「イノシシや猿たちが海沿いを歩く姿を目撃したり、原発から二〇km圏内では捕らえられたアライグマ（家屋への侵入など生活環境への被害が多発している）から九〇〇〇ベクレルが、泥からは一五〇〇〇ベクレルの放射線量が検出されたという報告がありました」。展示物のなかには『美味しんぼ』もありました。「当初は福島が否定されているようにイヤだった。だけど、ストレスや放射能との因果関係はわからないとされていますが、確かに鼻血を

出している人は多かったのです。それで、最終的には内容はよかったと判断しました。福島のことを真剣に考えてくれていて、ここにも置くことにしました」と話してくれました。

飯舘村を 通過する

全村避難している飯舘村の側を通り福島市に向かいました。飯舘村は福島第一原発から北西に約四〇km離れた所にあります。原発が爆発したときに大量の放射能が風に乗って降った所です。東電が原発立地にはらまく「恩

恵」とは無縁の村でした。今、全国を巡回している「飯舘村の暮らしー菅野千代子写真展ー」は事故の前年に撮影された写真が、豊かな飯舘村の暮らしの様子を映し出しています。先日、京都で行われた写真展で菅野さんは「飯舘村は標高四〇〇



「大根シスターズ」
菅野千代子写真展より

から六〇〇坪の所にあり、四〇年くらい前までは毎年のように冷害に悩まされ、作物がうまく育たなかった。それを村民たちが知恵と力を出し合って、寒冷地でも農業できる品種を探り、みつけ、やっとなんと成功した土地でした」と話されています。全国の「美しい村連合」にも加盟していたという。失ったものの大きさを痛感させられます。

福島市で

福島市は都会です。多くの人が行きかう駅前線の線量は〇・二（こっそりと測る）。駅前商店街

にある「カーちゃんわい
わい農園」は福島産を中
心とした無農薬の農作物
でお惣菜やレトルトカレー
やうどん（乾麺。これ、
おいしかったよお。大阪
のスーパーで売っている
そうめん類をゆでて食べ
ると、気のせいなのか
んなのか、そこはかとな
い薬品臭が鼻のあたりに
残るような残らんような
感じがするものだが…。
豊かさとはこういうもの
を口にすることではない
のだろうか、思いはど
んどんぶくらんでいく味
でした。やれやれ…）な
どの加工品を製造・販売
するお店です。そこに併
設されているカフェで、

福島市で暮らすお母さん
たちの話を聞くことがで
きました。

「放射能を気にしてい
ない若いお母さんもいっ
ぱいいる。また、あるお
母さんは原発事故後、子
どもを連れて避難した。
そして、除染も終わった
しで、福島に戻ってきた。
そのことを誰も何も言わ
ないんだけど、避難した
ことを負い目に思ってい
る」持たなくてもよい負
の思いを抱えている人た
ちがおり、だから「事故
直後、放射能を気にする。
しない。に関わらず、子
どもたちだけでも行政
（国）の責任で強制的に
集団で疎開・避難させて

ほしかった」と、そして
「昨年、小学生だった娘
が最後の夏休みの自由研
究で、通学路の予測した
所の放射線量を測った。
タブーかと思っていたが、
市がこれを展示した。除
染が解決されないなかで、
できることは自分でやれ
ということかと思いまし
た。屋外活動は悩みの種
なのだが子どもたちにも
解決する力をつけるため、
あえて野外キャンプもし
ています」と話してくれ
ました。そして、高校生
と小学生の男の子がいる
人は「避難もしたし、保
養キャンプにも参加して
いる。でも落ち込んで、
調べて、三年たって、も

ういかなと思うように
なった。それは諦めたの
でも許すでもない。も
ちろん、原発の責任は追
及していく。だけど…」
と福島で生活していくこ
とを、その思いの一端を
静かに、淡々と語って
くれました。

NPPO法人 CRMS市民放 射能測定所福島

自由に持ち帰っていい
パンフレットがたくさん
並べられていました。そ
の中には「私たちが暮ら
す環境は簡単には戻らな
い。だから、『まず、は
かること。そして、知る

こと』」「原発事故による放射能汚染に直面し、放射能防護に対する知識及び材料を求めている市民、とりわけ子育て世代に対して被ばく量を低減するための総合的な支援活動を行う事を目的に設立されました」と書かれています。

福島で流通している食品の放射線量を産地ごとにきめ細かく測定し、検出データを公表しています。この測定所を担っておられる人は「福島から遠く離れた所のものよりも、線量が低い、あるいは不検出とされた新鮮なものを食べて、すばやく体内から排出することが

今は重要ではないか」「ある家庭では常に測って暮らすことで、小学生の年間線量を0・五五mSvに抑えている」と話してくれました。これは並大抵のことではない。福島市の線量は高い。アスファルトとコンクリートに囲まれた駅前でさえ、(こんなことをする人はいないけど)一年間、立ち続けていると被ばく線量は単純に計算して一・七mSvを超える。

環境省は莫大な税金を注ぎ込む除染事業を大手ゼネコンに丸投げしました。その時点で除染事業は新規巨大利権事業になったという指摘があります

(被ばく労働を考えるネットワーク編『除染労働』参照)。だから石原環境大臣のあんな発言(除染で出た汚染土などを保管する中間貯蔵施設をめぐる「最後は金目でしょ」)が出たんだ。謝っても撤回してもダメよ。国の本音が丸ごとでてるもの。石原大臣は孫や子どもと一緒に福島で年間被ばく線量を1mSv以下に抑える生活をしてみるべきだと思っ。

福島で出会った人々が話してくれたことや被災地の風景からは改めて国や東電の責任の重さ、それを果たしているとはとても言えない現状がリア

ルに見えてきます。石原大臣はきつと二・四万年(プルトニウム半減期)の歳月を経てもなお、力ネがすべてと思ってることだろう。飯舘村の豊かさはいくら言い募っても理解することができないだろう。安倍政権はそういう人たちの集まりのように思えてならない。だから、やっぱり声を上げて行動しないとダメなんだと思う。原発はいい。再稼働はあってはならない。

【編集委員 T】